盲学校の地域におけるセンター的機能に関する補充調査

Ⅰ．目的

本プロジェクト研究では、盲・聾・養護学校を対象に「センター的機能」に対する考え方や現状での取り組みに対してアンケート調査を実施したが、盲学校および聾学校では、すでに多くの学校で先導的な取り組みが試行されており、今後の重要な機能の一つとしての理解が進んでいる。そこで、盲学校について、より具体的にこれまでの取り組みの実態や課題を明確にするために、他機関との連携の実態や課題およびセンター的機能充実にむけての取り組みに関して補充調査を追加実施した。

Ⅱ．調査内容

１ 連携について

（１）「連携」の内容
（２）「連携」先と関わり方
（３）「連携」機関との関係づくり
　① 現状での配慮点・工夫点
　② 関係作りの上での課題点
　③ 円滑な関係づくりのために求められる工夫
（４）連携している機関との共同事業
（５）「連携」を推進する上でのコーディネーターの役割

２ センター的機能充実のための活動

（１）校内でのセンター的機能についての理解・啓発活動
（２）外部へのＰＲ活動
（３）「センター的機能」にかかわる担当者の専門性について
（４）センター的機能充実のために必要とされる施設・設備

Ⅲ．回答数

本調査と共に実施し、全国の盲学校 71 校のうち 57 校から回答があった。

Ⅳ．結果

１ 他機関との連携について

盲・聾・養護学校のセンター的機能を充実していくためには、多くの盲学校において教育以外の機関との連携も重要性をあげている。そこで、「連携」の内容を具体的にどのように考えており、どのような取り組みをしているかについて、以下の項目について調査した。

（１）他機関との「連携」の内容

他機関との「連携」にどのような内容が含まれているかをたずねた。結果は表１に示したとおりである。連携の内容としては、盲学校以外の機関と関係を持っている盲学校在籍児童生徒のケースについてその指導法や指導内容について具体的な情報交換を目的としているという回答が 48 校からあった。これは回答校の 84.4%にあたる。「ケースを紹介しあう」「共同で専門分野の資質の向上に関わる勉強会や研修会を行う」ことを想定している学校もそれぞれ 45 校（78.9%)あった。

児童生徒に関する情報だけでなく、「機関の事業内容や活動計画に関する」情報交換を連携の内容に含めている学校も 43 校（75.4%)あった。人事交流を考えている学校も 15 校（26.3%)あった。

表１　他機関との「連携」に含まれると考えられている内容

ケースについて双方で協議して指導法や内容を検討する	48 校（84.2%）
ケースを紹介しあう	45 校（78.9%）
共同で専門分野の資質の向上に関わる勉強会や研修会を行う	45 校（78.9%）
機関の事業内容や活動計画に関する情報の交換をする	43 校（75.4%）
人的交流をする。	15 校（26.3%）
共同で文化祭などのイベントを行う	10 校（17.5%）
その他	3 校（ 5.3%）

（２）連携先

盲学校が実際にどのような機関とどのような連携をしているかたずねた。連携をしている機関は表２に示したとおりである。病院と連携しているという回答が最も多く、31 校あった。ついでリハビリーテーション関連機関と連携しているという回答が 26 校からあった。半数以上の盲学校は病院や療育関連施設や福祉関連機関と連携していることになる。連携先としては、医療機関、福祉・労働関連機関、他の学校、行政関連機関が多かった。

表２　盲学校が連携している機関

病院	31 校
訓練施設・リハビリテーションセンター・療育センター・視力障害センター	26 校
小中高等学校	17 校
保健所、保健センター等	15 校
眼科医	10 校
児童相談所	10 校
市町村の保健・福祉関係課（係）・福祉事務所	11 校
聾学校・養護学校	8 校
保育園、幼稚園	8 校
教育委員会	8 校
地域のハローワーク	8 校
特殊教育センター	7 校
保健	7 校
大学の視覚障害教育関連部門	6 校
盲児施設	4 校
障害者職業センター	3 校
ボランティアグループ(点訳・拡大本)	3 校
障害者生活支援センター	2 校
作業所	2 校
小児科	2 校
小・中学校弱視学級	1 校
地区の公民館	1 校
鍼、灸、マッサージ師会	1 校
伴走者協会(ランニング)	1 校
地域療育コーディネーター	1 校

（３）「連携」機関との関係づくり

１）他機関と円滑な連携関係を築くためにどのような点に配慮したらよいかたずねた。

各盲学校が他機関との関係作りにおいて配慮・工夫している点については表３に示したとおりである。積極的な働きかけをしているという学校が 14 校で最も多く、ついでリーフレットなどを配布して盲学校を知ってもらう努力をしているという学校が７校あった。その他の回答からも、日常的な関わりを通しての情報発信やパンフレット配布などによる宣伝活動、ネットワーク作りに努力していることが認められた。

表３　連携する上での関係づくりの配慮・工夫点

協力関係作りを積極的に行う	14 校
ﾘｰﾌﾚｯﾄなどの作成配布	7 校
こまめな情報交換	3 校
情報発信・提供	3 校
学校理解のための見学会	3 校
地域に教育相談ネットワーク	3 校
関係機関双方にメリットなる活動	2 校
各機関からの指導を受ける	2 校
ケースの経過を報告する	2 校
人的ネットワーク	2 校
役割分担の明確化	1 校
提供資料の作成	1 校
地域支援のコーディネーター	1 校
保護者のとの連携	1 校
人材の確保	1 校
学校紹介	1 校
訪問活動	1 校
生徒の学習の場の確保	1 校

２）関係作りで苦慮している点

学校は、他の機関とシステムなどが異なっている点があるため、連携がとりにくい所もあるという指摘がある。そこで、ここでは、他機関との連携において苦労している点についてたずねた。その結果は表４に示した通りである。

連携先との関係作りで苦慮している点として、特に顕著な傾向は結果からは認められなかった。上位の回答からは、医療機関とのコンタクトを望みながら思うように果たせていない現状が認められた。また、この結果には、時間の調整や担当者の人間的なつながりも連携に影響することが示されている。

表４　連携先との関係作りで苦慮している点

医療機関等との連携が不十分	6 校
時間の調整が難しい	6 校
盲教育ｾﾝﾀｰ的機能の理解の不足	4 校
他の学校などの視覚障害児の把握難	3 校
教員の意識の統一　意識変革	3 校
連携の必要性の共通認識	2 校
情報の共有が難しい	2 校
担当者の入れ替わり	2 校
説明の時間が十分にとれない	2 校
遠隔地のため直接の交流に難	2 校
盲学校否定の風潮	1 校
相手の担当部署が不明確	1 校
支援マップづくり	1 校
担当者以外の交流の場がない	1 校

３）円滑な関係を築くために必要な工夫

他機関と円滑な連携を進めていくためには、どのような工夫が求められるかたずねた。結果は表５に示したとおりである。円滑な連携関係を保つためには、人的交流や諸々の手段による情報交換などを通して継続して交流をすすめるとともに、お互いの共通理解を図っていくための努力をしていくことが重要であることが示された。

表５　他機関との円滑な関係を築くために必要とされる工夫点

定期的な交流　メール情報交換	16 校
基礎的知識の共有・共通理解	11 校
日程の調整	8 校
行政機関の関与	7 校
年間計画への位置づけ	5 校
研修会・学校見学の充実	2 校
相互交流の文書交換	2 校
担当者との交流	2 校
連絡調整の時間つくり	2 校
事業の整理統合	1 校
早期からの交流	1 校
人間関係	1 校
目的の明確化	1 校
相談室の確保	1 校

（４）連携機関との共同事業

「連携」をしている場合、実際に連携機関と共同でどのような活動をおこなっているかたずねた。研修会を実施しているところが 27 校で最も多かった。

表６　連携機関との共同事業

研修会	27 校
ケース会議	19 校
双方のイベントへの参加	16 校
勉強会	13 校
施設・設備の相互利用	11 校
所属長同士の交流	8 校
交流会	7 校
その他	3 校

（５）コーディネーターの位置付けなど

表７　コーディネータの位置づけ

担当者の専門性・資質	29 校
専任教員・担当者の充実・組織の充実	20 校
研修の充実・教職員の意識向上	4 校
未検討	3 校
相談室の開設	2 校
特殊教育ｾﾝﾀｰなどのコーディネート	1 校
担当者の関心熱意	1 校
時間的ゆとり	1 校

２ センター的機能充実のための活動について

（１）校内での理解啓発

校内での理解啓発活動が行われているかどうか尋ねた。また、理解啓発活動が行われていると回答のあった学校については、その活動の具体的な内容を尋ねた。また、現在行われていない学校については、今後の計画について質問した。

表８－１　校内での理解啓発活動の実施

行っている	48 校
行っていない	9 校

表８－２　理解啓発活動の内容

情報の公開・共通理解	27 校
研修	18 校
分掌の確立・相談室整備	12 校
外部への宣伝	15 校
教員の分担	2 校

表８－３　理解啓発活動に関する今後の計画

ネットワークなどの活用を検討中	2 校
何らかの対応を検討中	1 校
現在のところ計画なし	1 校
無答	5 校

「センター的機能」充実のための学校内での活動については、何らかの形で 48 校が行っており、現在行っていない学校でも３校で計画が進んでいる。盲学校では積極的に取り組まれていることが明確に示された。具体的には、教職員の理解を図ることに力を入れていることがうかがわれる。

（２）校外へのＰＲ

センター的機能に関して校外へのＰＲ活動が実施されているかどうか尋ねた。57 校中 54 校とほとんどの学校で取り組まれていることがわかった。行っていると回答のあった学校に、その具体的な内容を質問した。学校案内・パンフレット・リーフレットなどの配布・ホームページの活用など文書や電子データ等を通して行っているケースが多かった。訪問等による宣伝活動によるものが次に多かった。本結果からは、盲学校においては校外への宣伝活動も積極的に行われていることが認められる。

表９－１　校外へのＰＲ活動の実施

校外へのＰＲを行っている	54 校
行っていない	3 校

表９－２　校外へのＰＲ活動を行っている場合の内容

学校案内・パンフレット・リーフレットなどの配布・ホームページの活用	39 校
外部へ出向いての宣伝	19 校
広報紙などへの案内	11 校
学校公開などでの宣伝	7 校
理解啓発のための学習会	6 校

表９－３　校外へのＰＲ活動に関する実施今後の計画

ＰＲ活動の一環として「学校見学会」や理解啓発のためのイベント	２校
インターネットホームページの活用	１校

（３）担当するスタッフの専門性の向上について

センター的機能を担当するスタッフの専門性を向上させるための方策について質問した。

校内研修会を充実したり外部研究会を活用したりしているという回答が半数以上の学校からあり、担当するスタッフの専門性を高めるためには、校内および校外での研修に力を入れていることが示された。外部の専門機関の活用も重視されていることが認められた。

また、センター的機能を行う上での教員外のスタッフについて、必要だと考えている盲学校が70%を上回った。医療とくに眼科関連の領域での専門性の必要性が求められていることが明らかになった。

表 10-１　資質向上のための研修

校内研修会充実	35 校
外部研究会の活用	27 校
NISE・大学ライトハウスなど専門機関の活用	21 校
盲学校間の情報交換	11 校
核となる教員の育成	10 校
弱視に関する研修	4 校
特殊教育ｾﾝﾀｰの活用	4 校
資料などの充実	2 校
行政の理解	2 校

表 10-２　教員以外のスタッフの必要性

(a)必要	40 校
(b)必要ない	14 校
無回答	3 校

表 10-３　(a) 必要なスタッフの例としてあげられた職種

ORT（視能訓練士）	15 校
眼科医	14 校
臨床心理士カウンセラー	11 校
歩行訓練士	7 校
ｽｰﾊﾟｰバイザイー	5 校
看護婦ケースワーカー	4 校
ＰＴ/ＯＴ	3 校
民生委員	1 校
保健婦	1 校
ボランティア	1 校
必要だが現実には困難	1 校

表 10-４　(b) 必要だと思わない理由

校内スタッフの資質向上で十分	6 校
専門スタッフとのネットワークを構築	5 校
学校としてのセンター的機能には限界	2 校

（4）思われる施設・設備

センター的機能を充実させるための施設・設備については、専用の相談室が必要だという学校が27校と最も多かった。それに次で、教材教具、プレールーム・学習室が上げられた。これは、在籍児童生徒用のものとは別に自由に使うことのできる、指導の場や設備を充実していくことが必要であることを表しているといえる。

表11　必要と思われる施設・設備

相談室	27校
教材教具	23校
プレイルーム学習室	19校
検査室	14校
パソコン	13校
図書資料室	8校
拡大読書器	7校
レンズ類	7校
電話など事務機器	4校

Ｖ．考察

本調査結果からは、センター的機能を充実させるためには、他の機関との連携が必要であることが盲学校においても明白に認識されていることが示された。特に医療関係機関との連携が重要視されていることがわかった。しかし、連携機関との関係を深めていくためには、時間的にも組織的にも課題点の多いことが浮き彫りにされた。また、連携を推進するためには担当者の育成が今後の課題であることも明らかになった。また、少数ながら学校としての本務を再認識すべきで、センター的機能はその範囲内でできることに徹すべきであるという意見もあった。

センター的機能の充実に関しては、校内的にも校外に対しても、すでに盲学校では多くの学校が積極的に対応していることが本調査でも確認された。その活動を推進するための様々な活動が展開されていることも明らかになった。

センター的な機能を果たすためにスタッフの専門性や資質が重要であることも認識されており、さまざまな取り組みが開始されていることが明らかになった。とくに、核となる教員の育成を検討している学校が多く、このことによりセンター的機能だけでなく、盲学校としての機能の充実が図られていくことも期待される。

教員外のスタッフの関与の必要性については肯定的な意見が多かった。とくに医療・心理関係のスタッフの必要性が示された。一方で、学校のスタッフで責任を持って取り組むべきであると主張する意見もあった。これらの回答には、それぞれの学校の地域資源の違いなども反映されていると思われるので、実態をきちんと把握した上での対応が必要になってくると思われる。

施設・設備面では、相談室など独立した施設・設備の充実を求める意見が多かった。このことはセンター的機能が拡充すると共に、校内の部屋との共同利用が困難になってきていることを示しているようにも思われ、今後地域の中でも貴重な存在である盲学校の開かれた学校としての機能が高まるにつれて、こうした要望も強まってくるものと思われる。海外においても、センター的機能を実施しているところは学校とは独立した形で組織を編成し、施設も独立させているが、わが国でのセンター的機能を推進するに当たって、この点については明確な方針を示していく必要があると思われる。

（大内　進）

<資料>

盲学校におけるセンター的機能に関する追加調査記録票

センター的機能に関して、盲学校では、すでに多くの学校で先導的な取組みが試行されております。そこで、盲・聾学校につきましては、より具体的に実態や課題を明確にするために、他機関との連携の実態や課題、センター的機能充実のための活動について追加の調査をさせていただくことにいたしました。ご多忙中恐縮ですが、以下の質問にご回答くださいますようお願いいたします。

なお、この追加調査につきましては学校単位でご回答ください。回答方法やご返送締め切り等は全体調査に準じて対応して下さいますようお願い致します。

また、盲学校のセンター的機能に関連して、その実状を詳細に把握するために、以下のような資料でご提供いただけるものごございましたらご送付いただけると幸いです。

１．　センター的機能に関しての貴校の実践および研究報告書
２．　センター的機能の実践や研究などの計画に関する資料
３．　学校のセンター的機能や教育相談活動などに関するパンフレットなどの広報資料
４．　学校要覧

よろしくお願い申し上げます。

この追加調査に関するお問い合わせは下記へお願いいたします。

独立行政法人　国立特殊教育総合研究所
〒239-0841　神奈川県横須賀市野比 5-1-1
電 話：０４６８－４８－４１２１
ﾌｧｯｸｽ：０４６８－４９－５５６３
プロジェクト研究「特殊教育諸学校の地域におけるセンター的機能に関する開発的研究」
感覚障害教育部門担当：大内（301）

記入年月日：２００１年　　月　　日
学校名：
記入者：
職名：（ 1.学校長、 2.教頭、 3.教務主任、 4.その他　　　　）

２－１　連携について

１　センター的機能を充実するためには、他の機関と連携の重要性が指摘されています。

貴校では「連携」にはどのような内容が含まれるとお考えですか。以下の項目の中であてはまるものがあれば以下の項目のチェック欄に印をつけてください。それ以外の定義があれば空欄に具体的にお書きください。

□　①　ケースを紹介しあう。
□　②　ケースについて双方で協議して指導法や内容を検討する。

□ ③　機関の事業内容や活動計画に関する情報の交換をする。
□ ④　人的交流をする。
□ ⑤　共同で文化祭などのイベントを行う。
□ ⑥ 共同で専門分野の資質の向上に関わる勉強会や研修会を行なう。
□ ⑦ その他

2　貴校ではどのような機関とどのような関わりがありますか。関わりある機関とその関わり方の内容を、上記の項目①～⑦より選んで下の欄に記入して下さい。

機　　　関	関わり方の内容
（記入例）　病 院	①

3　「連携」する機関との関係作りについてうかがいます。
①　関係作りにおいて配慮・工夫をされていることがありましたら下欄にご記入ください。

②　関係づくりで苦慮している点がありましたら下欄にご記入ください。

③ 円滑な関係を築くためにはどのような工夫が必要だと感じておられますか。
（例）双方のメンバーが参加できる時間の設定、年間計画への組み込み、相互交流の文書の取り交わし、関係行政機関の関与、基礎的な知識の共有など。

４　「連携」をしている機関と次のような活動を行っていますか。以下の項目の中であてはまるものがあればチェック欄に印をつけてください。それ以外の活動があれば空欄に具体的にお書きください。

□　① 勉強会
□　② 研修会
□　③ 交流会
□　④ 双方のイベントへの参加
□　⑤ ケース会議
□　⑥ 所属長同士の交流
□　⑦ 施設・設備の相互利用
□　⑧ その他

５　「連携」を成功させるためには、コーディネーターの役割を果たす人が大切だと考えられます。担当者の専門性、資質、分掌上の位置づけなどについて貴校ではどのようにお考えですか。下欄にご記入ください。

２－２　センター的機能充実のための活動

１　校内でのセンター的機能充実のための活動についてうかがいます。校内でセンター的機能についての理解・啓発のための活動を行っていますか。

□　①おこなっている（①欄に具体的に記述してください。）

□　②おこなっていない（②欄にお答えください。）

①理解・啓発のための活動を具体的にご記入ください。

②今後そのような活動を行う計画がありますか。ある場合はその計画を具体的にご記入ください。

２　外部に事業のＰＲを行っていますか。

□　①おこなっている（①欄に具体的に記述してください。）

□　②おこなっていない（②欄にお答えください。）

①行っている活動を具体的にご記入ください。

②今後そのような活動を行う計画がありますか。ある場合はその計画を具体的にご記入ください。

３　センター的機能を行う上では、担当するスタッフの専門性が重要になると考えられます。以下の問いにお答えください。

①　担当教員に必要な専門性と資質の向上のための研修には、どのような方法が考えられますか。

② 教員以外のスタッフが配置されていますか。

□　（ａ）いる（ａ欄にお答えください）

□　（ｂ）いない（ｂ欄にお答えください）

（ａ）　配置されている職員の職種を具体的にご記入ください。

（ｂ）　今後、教員以外のスタッフの配置を望みますか。その場合、どのような職種をお考えですか。空欄に具体的にお書き下さい。

４　盲聾学校のおけるセンター的機能に必要な施設・設備にはどのようなものが必要でしょうか？できるだけ具体的に下欄にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。